

# 平成 26 年度 山内図書館事業計画書

衣・食・住・読！ 生活密着図書館「Liferay」を目指して

有隣堂グループ

2014/03/11

## 目 次

はじめに	2
山内図書館運営の基幹方針	3
1 施設の概要	3
2 指定管理者	3
3 指定管理業務の方針	3
4 施設運営及び管理に関する計画	4
1. 青葉区及び山内図書館の特徴	6
2. 平成 25 年度の振り返り	7
3. 外部からの要望	8
4. 山内図書館の現状と課題	10
5. 平成 26 年度事業の方針	14
6. 具体的な取り組みと期待される効果	15
7. 予算案	17

おわりに

### － 資料 －

- 別紙 1 山内図書館 平成 26 年度自主企画事業年間計画表
- 別紙 2 山内図書館 平成 26 年度小・中学校支援年間計画

# 衣・食・住・読

## 生活密着図書館「Liferay」

### はじめに

私たちは山内図書館を地域とともに活性化する『生活密着図書館 liferay (ライフラリー)』ととらえています。実りある豊かな人生を送るには、衣食住が満たされるとともに、知的好奇心を満たすことが重要であると考えます。

「衣・食・住・読」をコンセプトに、利用者の身近で、利用者に寄り添い、利用者の人生を豊かにする図書館を目指します。

# 山内図書館運営の基幹方針

## 1 施設の概要

施設名	横浜市山内図書館
所在地	横浜市青葉区あざみ野二丁目3番地の2
構造・規模	鉄筋コンクリート造3階建(図書館部分:2階)
延床面積	2,147平方メートル

## 2 指定管理者

法人名	有隣堂グループ
所在地	横浜市戸塚区品濃町881-16
代表者	株式会社 有隣堂 松信 裕
指定期間	平成22年4月1日～平成27年3月31日
主な受託実績	株式会社 有隣堂 指定管理者実績: 大田区立大森東図書館、綾瀬市立図書館 横浜市市沢地区センター・港南台地区センター・永谷地区センター 業務委託実績: 横浜市都筑・戸塚図書館・東戸塚駅・二俣川駅行政サービスコーナー、川崎市立川崎・幸・麻生・多摩・高津・宮前図書館、厚木市中央図書館、小田原市学校図書館支援(36校) 大田区学校図書館支援(4校) 横浜国立大学付属横浜中学校図書館支援 三洋装備 株式会社 指定管理者実績: 小山市民文化センター・小山中央公民館・生麦地区センター・西湘体育センター 業務委託実績: 横浜市美しが丘西地区センター(他32か所) 平成26年3月現在

## 3 指定管理業務の方針

### (1) 基本方針

指定期間中の基本方針は、指定期間の5年間を通して次のとおりです。

山内図書館の図書館基本業務の確実な継承・維持・強化とサービスの増加により、市民の生活や活動の支援・応援を行い、身近で親しみやすい生活密着図書館となることを目指します。山内図書館のサービスの基本方針は以下の3つです。

#### ① 地域情報拠点機能の強化

地域の実情を研究し、必要とされる情報の収集と利用者満足度の高い提供方法を検討・実施していきます。

## ② 課題解決支援機能の強化

生活情報へのアクセシビリティを高め、「ここにくればわかる」図書館を目指すとともに、自助自立の精神をもって市民の情報リテラシー向上を支援します。

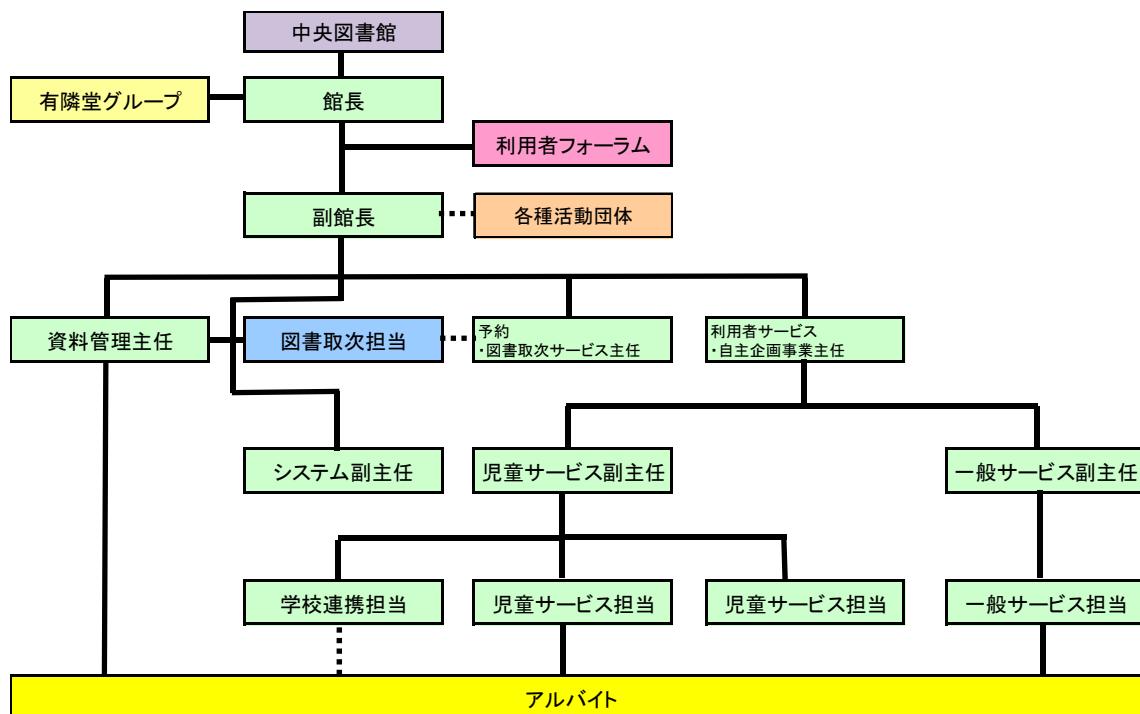
## ③ 地域の特色に合わせた個性ある地域図書館

利用者会議「山内図書館利用者フォーラム」からの意見をはじめ、地域で活動するボランティアや企業も含めた団体などから地域の方々の声を運営へ反映させます。また、自主企画事業での連携企画やボランティア団体や子どもの図書館活動への参加機会創出など、市民の活動の場を提供します。

## 4 施設運営及び管理に関する計画

### (1) 人員配置及び研修

[組織図]



[研修]

	対象	備考	回数／年
個人情報保護研修	職員・アルバイト全員	個人情報の取扱、注意事項などの研修	2
コンプライアンス研修	職員・アルバイト全員	法令遵守のための研修	1
防災訓練	職員・アルバイト全員	地震を想定した避難訓練、AED講習	2
児童サービス	児童サービス担当	外部の講座の受講など	5
障害者サービス	障害者サービス担当	外部の講座の受講など	1
レファレンスサービス	職員	外部の講座の受講など	3
自主企画事業	自主企画事業担当	神奈川県図書館協会の受講	1
クレーム対応研修	職員	中央図書館の講座受講	1
郷土資料研修	資料担当	中央図書館、神奈川県図書館協会の講座受講	2

## (2) 施設の保守・管理

業務内容	達成指標
建築・設備の保守管理	建築物・建築設備ともに積極的な保守管理を行い、異常が発生する前の予防保全を行っていきます
警備業務	夜間は無人になるため、機械警備により安全管理を行います 人感センサー、セキュリティカードにより図書館の安全を確保します
清掃・環境衛生管理	日常清掃はトイレを重点的に衛生的に保ちます また、テーブル・PC 他利用者の目につくところに手を入れ 快適に利用してもらえるように心がけます

## (3) ニーズの把握、情報公開

### ① ニーズの把握

平成25年度に引き続き、カウンターで利用者から直接お聞きするご意見、記入して意見箱に入れていただく「利用者の声」、イベント時でのアンケートなどから利用者ニーズを把握していきます。加えて、山内図書館利用者フォーラムや団体利用者などからも意見を聞く機会を設けていきます。

### ② 個人情報保護・情報公開

「個人情報の保護に関する法律」、「横浜市個人情報の保護に関する条例」ほかの法令を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努めるとともに、「横浜市山内図書館情報公開規程」に基づき、情報公開についての適切な対応に努めます。

## (4) 危機管理

防災計画に基づき、年2回の防災訓練を実施します。危機管理マニュアルに基づき、図書館に起こりうる危機（災害・事故・犯罪・迷惑行為等）に備えた教育・研修を行います。また、連絡体制についても、緊急連絡網により中央図書館・本部への連絡を徹底します。

## (5) 自己評価

これまでと同様、職員全員にセルフモニタリングを実施します。このセルフモニタリングをもとに、有隣堂グループによる「セルフモニタリング会議」を開催し、自己評価を行って今後の方向性を話し合い、平成26年度の事業に反映させます。

「セルフモニタリング報告書」は、市及び「山内図書館利用者フォーラム」に報告後、ホームページ等で公表します。

## 1. 青葉区及び山内図書館の特徴

### (1) 青葉区の特徴

横浜市青葉区は、「全国的に長寿であること」、「人口が多い」、「若い子育て世代が多い」、「公園や街路樹が多い緑豊かな街並みであること」が特徴としてあげられます。人口推移も微増傾向にあり、昭和以前から住んでいる旧住民と東急開発による新興住民が混在しています。横浜市内で市外就業率が一番高く、特に東京都へ通勤通学する住民が多い地域です。

区内には、大学が5大学、高校4校、中学校12校、小学校31校と文教施設が多いことも特徴です。

一方、寺家ふるさと村やこどもの国など自然を残した施設があり、公園の数も市内で一番多く自然に恵まれています。

### (2) 山内図書館の特徴

昭和52年に開館した横浜市内で、3番目に歴史ある図書館です。建物は地区センターとの複合施設で、地域の拠点となっています。駅から徒歩3分の場所にあり、アクセスのよい便利な図書館です。

平成22年度からは横浜市初の指定管理者制度が導入され、制度導入とともに開館時間を延長しました。平日火曜日から金曜日は、20時30分まで開館しています。

また、山内図書館は青葉区内の地区センター等に委託し、図書取次事業を実施しています。利用者は山内図書館に来館せずとも、近隣の地区センター等7施設で予約資料の受取と返却ができます。田園都市線の3駅にも返却ポストを設置しており、駅でも本の返却ができます。予約した資料を郵便で自宅へ送付する有料宅配事業も行っています。

利用者は、平日の午前は知的好奇心の高い高齢者、母親と未就学児の親子、午後は買い物帰りの主婦層、学校を終えた小中学生、夜間はビジネスマンが利用しています。土日はファミリーでの利用が多くみられます。

## 2. 平成25年度の振り返り

平成25年度は、指定管理運営4年目にあたり、5つの市会附帯意見を踏まえ、横浜市立図書館の一地域館として安定した運営をめざしました。また、「衣・食・住・読」の新コンセプトのもと、新しい取り組みにチャレンジするとともに、平成24年度の運営から浮かび上がった課題解決にも全力で取り組みました。

### (1) 図書取次サービスの強化

区内7箇所にある図書取次サービスポイントとの連携を図り、サービスの充実に努めました。そのために、図書取次担当者連絡会を開催し、現状の問題点を把握し、課題を共有化しています。また、各取次ぎサービスポイントの業務用端末は横浜市立図書館とはオンラインでつながっていないため、利用者の予約状況や貸出状況を参照することができません。日々寄せられる取次ぎサービスポイントからの質問には、担当者がきめこまかく回答し、貸出・返却業務のフォローに入っています。

### (2) 地域コミュニティとのさらなる強化

- ア 平成24年度からの継続事業として「やまうち朝市」を開催し、区内農業経営者との連携を図りました。
- イ 地域資料を「山内堂」で販売し、地域情報の普及に努めました。
- ウ 横浜・緑区米軍機墜落事故平和資料センターと協力し、区内で1977年に起こった「米軍機墜落事故」の展示を行いました。
- エ 区内にある横浜美術大学と連携し、図書館内の壁面に学生の作品ポスターを展示しました。
- オ 青葉区の伝統芸能「牛込の獅子舞」を講座と展示で紹介しました。
- カ 平成23、24年度に引き続き、朝から夜まで、1日中ボランティアによるおはなしを楽しむことができるイベント「夏のおはなし祭り」を開催しました。

### (3) 図書館内の環境整備

利用者に使いやすい館内環境をつくるために、人間工学の専門家に館内環境の調査・測定を依頼し、レポートを提出してもらいました。レポートの中で浮かび上がった課題や、利用者から挙げられた意見、職員・スタッフの意見の中から対応が可能なものを抽出し、改善に取り組みました。



- ア 「資料が探しやすい」図書館を目指し、一般と児童のテーマカラーを決めて統一性のある館内サインを作成しました。
- イ 図書館マップを作成しました。このマップは、一般と児童の検索機上部の壁に設置し、資料の配架場所を探すときに参照できるようにしました。

- ウ 「一般と児童コーナーがカウンターを挟んで左右に分かれている構造が、初めて来館する利用者にわかりにくい」という指摘に対して、床にサインを掲示しました。
- エ 東日本大震災後の節電対策として、間引きしてあった照明のうち、照度が明らかに不足している箇所について、照明箇所を見直しました。
- オ 無線 LAN の利用範囲を拡大しました。
- カ 観葉植物を置いて、安らぎと潤いのある空間をつくりました。

#### (4) 民間ノウハウを活用した新規利用者の開拓

- ア 春の転出入が多い時期に区役所に出張し、図書館登録デスクを設けて、新規登録を受け付けました（→柔軟な人員の配置と本部からの人員応援）。
- イ 託児サービスを実施し、「幼い子どもがいると図書館の利用は難しい」とあきらめていた子育て世代の利用者増加をめざしました。（→保育者の利用、有料サービスの実施）
- ウ 講座「青葉区と田園都市開発」第2弾を開催することにより、未利用者への図書館PRを図りました。（→民間企業との連携、鉄道会社OBへの講師依頼）
- エ 人気作家・万城目学講演。（→作家への講演依頼に際して出版社と連携、書店ノウハウの活用）

#### (5) 学校司書の配置に連動した学校連携事業の展開

区内の小中学校に段階的に学校司書が配置されることを受け、直接学校を訪問するスタイルから、学校司書からの相談を受けるなど間接的な支援に切り替えをすすめています。3年間の学校訪問で作成した「学校図書館運営カルテ」も図書担当の教諭や学校司書の方々の参考資料としていただくため、順次各校に配布しています。司書の配置の有無にかかわらず、幅広く支援を行うために山内図書館を会場として、製本・修理講座や読み聞かせ講座などを定期的に開催しました。また、司書教諭が参加しやすい夜間の講座を開催したり、地区センターを会場にした講座も開催しています。

### 3. 外部からの要望

#### (1) 平成24年度横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会からの指摘事項

- ア 基幹的なサービス  
平成24年度には個人情報漏洩の事例があった。個人情報保護は徹底しなければならない。
- イ 充実・推進を図るサービス  
学校司書の配置に伴い図書館の学校連携の役割も変わってくる。この変化に対応し図書館の役割を十分に果たしていく。

ウ 民間ノウハウを活かした新たな取り組み

有料宅配など、サービス改善の余地があるので、利用者満足度調査を細かく分析して今後のサービスに活かすことを期待する。

(2) 平成25年度山内図書館利用者フォーラムからの意見

- ・図書館で行った企画展示を、地区センターなどへの巡回展示の検討。
- ・電子書籍の導入。
- ・おすすめの本の紹介など、中学生向けの企画の検討。
- ・現在のティーンズコーナーは、入ってすぐの場所に設置されている。どんな本を手にしているかを気にする思春期の中高生が立ち止まるには開放的すぎる場所なのではないか。
- ・昨年度から導入した案内係は、声をかけやすくてよい。
- ・現在館内で「図書館だより」を配布しているが、ホームページ上での閲覧の検討。
- ・幼児教育へのアプローチは、地域色からみてニーズが高い。
- ・子ども向けに週末に読書相談にのる「読書コンシェルジュ」の検討。
- ・山内図書館のデジタルアーカイブ「青葉区風景写真データベース」を活用して、パネル展示やイベントの実施
- ・26年は区制20周年の節目にあたるので、この町を受け継いでいく次世代の子どもたちに向けた郷土の歴史を教える講座の開催
- ・たまプラーザ地区では、「次世代郊外まちづくりプロジェクト」が進行している。この企画と連携企画の検討。
- ・「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」に沿って、図書館、地区センター、学校図書館、コミュニティハウスのネットワークをつくってほしい。
- ・土、日曜日の閉館時間が18時までに延びるとうれしい。

(3) 山内図書館利用者満足度調査（平成25年3月実施）から見えてきたこと

- ・催しや展示については、満足向上への潜在力をもっている。広報を強化して多くに人に知ってもらう必要がある。
- ・所蔵図書については、満足度が低く、図書の充実が重要である。
- ・所蔵図書では、小説の他に、ティーンズ、大活字、地図の充実も有効である。
- ・施設・設備の満足度を高めるには、「資料の探しやすさ」「居心地の良さ」「座席の数」の拡充が有効である。
- ・スタッフのサービスに対する満足度は高く、その維持が求められている。

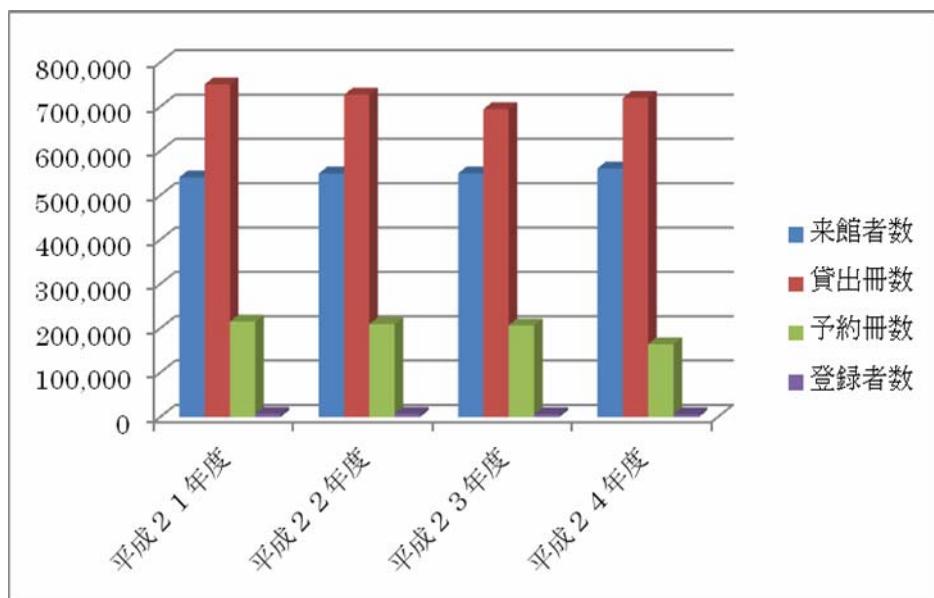
## 4. 山内図書館の現状と課題

### (1) 統計数値で見る現状

#### ア 図書館利用

	来館者数	貸出冊数	予約冊数	登録者数
平成21年度	540,679	750,250	215,108	7,043
平成22年度	549,059	726,970	209,207	6,786
平成23年度	549,568	694,503	206,625	6,115
平成24年度	560,787	719,596	※164,201	5,945

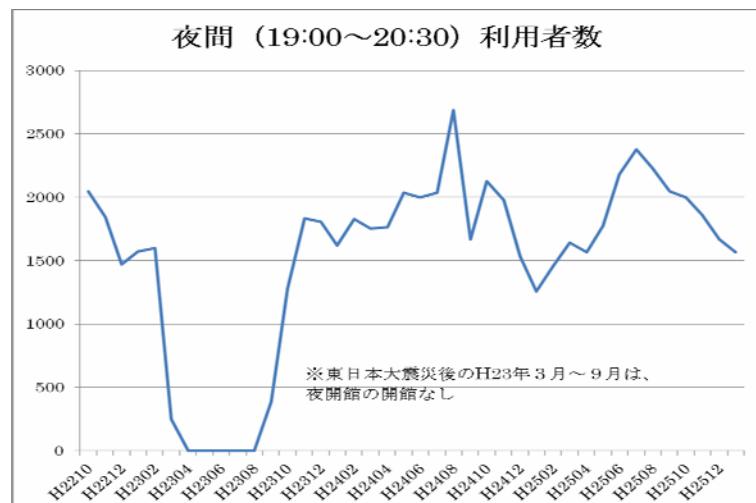
※平成24年度予約には、平成25年1~3月のインターネット予約分が含まれない。



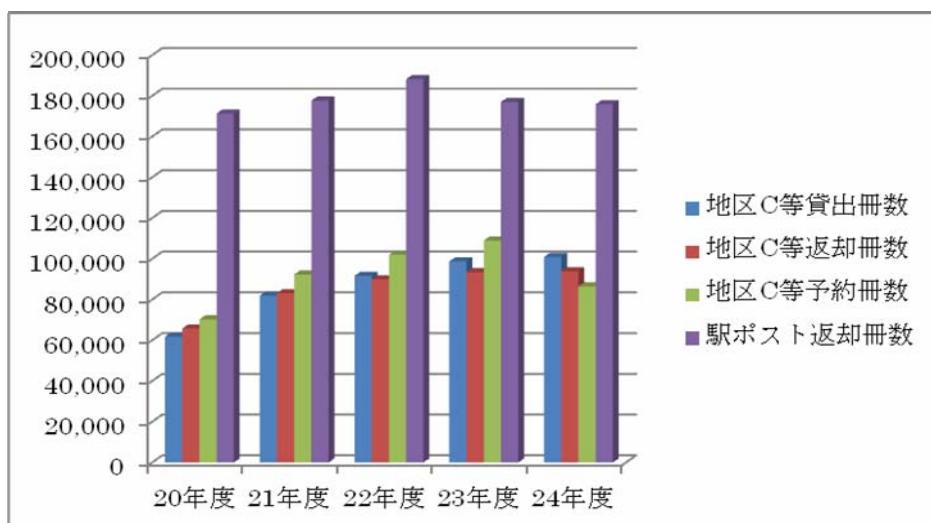
統計データからは、来館者数・図書貸出冊数は増加、図書館カード登録者数は減少傾向にあることがわかります。新規登録者数は減少傾向にあるものの、山内図書館の総登録者数は85,633人（平成25年12月）となっており、市内における総登録者数の8.92%を占めています。青葉区の人口は、306,394人（平成25年12月）であり、図書館のカード登録をしている人の割合は27.95%となっています。未登録者に、いかに図書館に足を運んでもらい、登録してもらうかが課題と言えます。

#### イ 夜間利用

東日本大震災後の夜間開館休止期間を除いて、一定の利用者数で推移しています。夏期に利用が多く、冬季に少なくなる傾向にあります。夜間開館していることの広報を幅広く行い、週末しか図書館を利用できないと思っている利用者へ夜間も利用できることを周知し、利用者の拡大を図る必要があると思われます。



#### ウ 図書取次サービス



	地区C等貸出冊数	地区C等返却冊数	地区C等予約冊数	駅ポスト返却冊数
20年度	61,782	65,783	70,268	171,402
21年度	81,958	83,168	92,308	177,725
22年度	91,649	90,007	102,036	188,229
23年度	98,761	93,463	108,960	177,026
24年度	100,942	93,893	※86,463	175,901

※平成24年度予約数には平成25年1~3月の予約分が含まれない。

※青葉台コミュニティハウス 平成22年度~

地区センター等での貸出冊数、返却冊数はともに増加傾向にあります。駅返却ポストを利用した返却冊数は、0.64%減少しています。

## (2) 戦略計画ツール「SWOT分析」を用いた課題の解析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	<p><b>【強み】</b></p> <p>① 図書取次による貸出冊数が増加している。          ② 地域の活動団体や大学とのコミュニケーションがあり連携事業が盛んである。          ③ 書店のノウハウ（出版社連携企画・店舗企画）がある。          ④ 学校図書館支援業務として青葉区内の学校図書館を把握している。          ⑤ 開館時間が長い。          ⑥ スタッフの接遇が評価されている。          ⑦ 区役所出張登録デスクの効果がある。          ⑧ 託児サービスが好評である。</p>	<p><b>【弱み】</b></p> <p>① 来館者数・登録者数とも減少している。          ② 登録率が少ない。          ③ 民間ノウハウが活用しきれていない。          ④ 利用者層が固定している。          ⑤ 新規利用者の獲得が不十分である。          ⑥ 地域の民間施設との連携が不十分である。          ⑦ 図書館の認知度が十分でない。</p>
外部環境	<p><b>【事業機会】</b></p> <p>① 地域の活動が活発である。          ② 夜間の利用増の見込みがある。          ③ 「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」により区役所との連携が期待される。</p>	<p><b>【事業脅威】</b></p> <p>① 直営館をはじめ、他の図書館で魅力的な講座が開催されている。          ② 他指定管理者が新しいサービスを展開している（武雄市等）。</p>



### 【平成26年度に取り組む優先課題】

- (A) 地域（活動家及び活動団体、民間会社）や区役所とのコミュニケーションをさらに強化し、地域のニーズをさらに把握する必要がある。
- (B) 新規登録を増やし、登録者数・来館者数を増加させなければならない。
- (C) 書店ノウハウを活用し、一層のサービスの充実を図らなければならない。
- (D) 新規利用者（夜間利用・地区センター利用含む）を増加させる必要がある。
- (E) 広報活動を強化し、図書館のPRをしなければならない。

## (3) 現状と外部の要望から浮かび上がる課題

### ア 図書取次サービスの強化

図書取次を行う地区センター等での利用は順調に伸び、貸出・返却冊数ともに増えています。ただし、地区センター等の利用者の中には、図書取次サービスを利用

したことがない、あるいは図書館カードを登録していないという方もいると思われる事から、地区センター等において図書取次サービスを広く知つてもらう機会を設ける必要があります。また、各取次ぎポイントは、オンラインで作業を行つてゐることから、利用者の貸出・予約状況がその場で把握できないなど、図書館でのフォローが必要となっています。図書館と各地区センター等とのコミュニケーションを円滑に図ることが大きな課題と言えます。

#### イ 地域コミュニティの強化による地域情報の充実

「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」が平成26年4月に施行されます。また、26年は青葉区区制20周年にあたることから、青葉区役所をはじめとして、区内の大学、小中学校、高校、区民利用施設、ボランティア、区内で活動するグループなどと協働して、読書活動のより一層の推進を図っていく必要があります。

#### ウ おもてなしサービス「山内マインド」の向上

山内図書館利用者満足度調査では、スタッフのサービスに対する満足度は高かつた（満足96%）と言えます。「スタッフ」について満足されている点は、「対応が親切・丁寧」であること（69%）、次いで「声をかけやすいこと」（39%）、「対応のスピード」（32%）となっている。声をかけやすい雰囲気づくりと利用者への目配り、図書館システム・業務手順のよりいっそうの習熟が求められています。また、個人情報保護の再度徹底を図る必要があります。

#### エ 民間ノウハウの活用

民間ノウハウの活用をベースに自主企画事業に取り組んできましたが、なお一層の民間ノウハウの活用が求められています。書店として培ってきたノウハウで図書館業務に活かせるものがあるか、再考の必要があります。

#### オ 学校連携事業の新たな展開

平成25年度より横浜市内の小中学校に学校司書の配置が始まりました。これを受け、これまで行ってきた支援の見直しを行うことが求められています。また、全部の学校に司書の配置が終わっていないことから、配置校、未配置校が混在する中の支援を工夫していく必要があります。

## 5. 平成26年度の事業方針

昨年度に引き続き、「衣・食・住・読」をコンセプトに、利用者にとって身近にあり、利用者に寄り添い、利用者の人生を豊かにする図書館を目指します。具体的には、「地域の情報拠点」、「知のシンクタンク」、「知のオアシス」を三本の柱とし、各事業に取り組んでいきます。そして、『生活密着図書館 liferary (ライフラリー)』として山内図書館を地域とともに活性化させて参ります。

### ① 地域の情報拠点

平成26年4月に施行となる「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」の推進に積極的に取り組んでいきます。これまで以上に青葉区役所をはじめとした区内のさまざまな施設や団体、学校との連携をすすめて、読書に関する事業の展開を図っていきます。

あわせて、昨年度までと同様に、青葉区関連の資料を積極的に収集し提供していきます。また、オリジナルホームページ、iPad の各地域情報コンテンツをアップデートしていきます。

### ② 知のシンクタンク

学習や学術的な調査への対応はもちろんのこと、生活する中で出てきた疑問も図書館で解決できるように資料の充実や情報提供に努めます。また、図書館をより身近に感じてもらうこと、活用してもらうことを目的として、館内ツアー、検索機の使い方講座を開催します。

### ③ 知のオアシス

より快適な読書や調べ物ができるようにするための改善に努めています。パソコン利用席を含む館内の調べ物席を、席数を確保したうえで、使いやすいスペースに変えていきます。

## 6. 具体的な取り組みと期待される効果

### (1) 図書取次サービスの強化

地区センター等において図書取次サービスを行っていることを広く知ってもらうために、より一層の広報に努めます。具体的には、タウン誌、地域情報サイトなどに図書取次サービスを取り上げてもらうなどの働きかけをしていきます。

また、新規登録者を増加させるために、地区センターまつりなどの行事に図書館として参加し、出張登録を行います。

図書館と各地区センター等とのコミュニケーションを円滑に図ることが大きな課題となっているので、図書取次担当者連絡会が有効な意見交換の場となるように、各取次ぎポイントを訪問して事前調査などを行います。

効果	取次ぎポイントとの連携の強化、新規登録者の増加
----	-------------------------

### (2) 地域コミュニティの強化による地域情報の充実

平成26年4月に「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」が施行となることを受け、地域の中心となり積極的に読書活動の推進に取り組んでいきます。条例の推進にあたっては、青葉区役所をはじめとした区内のさまざまな施設や団体、学校との連携を強化していきます。各関係機関・団体と定期的に連絡会をもち、平成26年度は区の活動目標を策定します。

また、区内にある大学および青葉区役所区政推進課と連携して山内図書館を会場に、生涯学習講座を開催します。

平成26年は、指定管理者運営の最終年にあたることから、これまでの地域資料および地域情報収集の集大成を図ります。青葉区に関する地域資料をきめ細かくチェックして、収集できていないものを補充していきます。例えば、各地区センターで開催する郷土史関連の講座資料なども収集していきます。また、青葉区は平成26年が区制20周年にあたることから、20周年に際して発行される資料を網羅的に収集します。

ホームページの地域情報の中で、更新できていないコンテンツの見直しを行います。さらに、地域資料を使ったレファレンスの記録をデータベース化して、地域資料の活用促進とレファレンス強化に努めます。

効果	地域との連携の強化、利用者の増加
----	------------------

### (3) おもてなしサービス「山内マインド」の向上

声をかけやすい雰囲気づくりと利用者への目配り・気配りができるように、接遇の研修を実施します。新人スタッフへは、入社時に来館者が満足されるための「基本マナー」や「笑顔の効果」等の「接遇教育」を実施します。スタッフ全員には、クレーム研修を実施し、5つステップによる応対方法や言葉づかいを教育します。

また、アルバイトスタッフに対して図書館システム、業務手順、資料検索の研修を行い、スキルの向上を図ります。個人情報の取扱いに関する研修を重ね、個人情報保護の徹底に努めます。

効果	サービスの維持・向上による利用者満足度のアップ
----	-------------------------

#### (4) 民間ノウハウの活用

書店のノウハウを活用して事業を展開します。まずは、書店での開催が先行している「ビブリオバトル」を図書館で開催します。また、出版社に協力を仰ぎ「トリックアート」の展示および絵本の表紙を利用した「エコバック」等の工作講座を開催します。

弊社店舗で置いている、弊社従業員が投稿した「私のおすすめする本たち」を配布し読書普及に努めます。

効果	図書館未利用者へのアピール・市民の読書推進
----	-----------------------

#### (5) 学校連携事業の新たな展開

学校司書への支援を、教育委員会事務局指導企画課および中央図書館サービス課の支援計画の下、積極的にすすめていきます。平成22～25年度に学校図書館ボランティアを対象として開催した修理・製本、読み聞かせ、環境整備に関する講座の対象を学校司書にも広げます。講座の名称は「ボランティア相談日」から「学校図書館相談日」に改め、会場も山内図書館だけではなく、各地区センター等でも開催していきます。これにより、各地区センター等付近の学校関係者が参加しやすい環境を整えます。また、ホームページの「学校支援ページ」を、学校図書館関係者に活用してもらえるページになるようにコンテンツを工夫していきます。

効果	学校連携の強化
----	---------

## 7. 予算案 (平成26年度收支予算書)

項目		予算額
収入	指定管理料	173,391,000
	事業収入	250,000
	その他の収入	330,000
	合計	173,971,000
支出	人件費	75,000,000
		57,251,700
	管理費	
	光熱水費	23,270,000
	施設・設備の保守管理料	19,415,300
	清掃・衛生管理費	10,076,400
	施設維持消耗品	2,950,000
	通信・回線利用料	540,000
	修繕費	1,000,000
		10,648,300
事業費	自主企画事業費	4,135,000
	図書取次サービス事業費	6,513,300
事務費		31,071,000
	LAN環境整備・運営費	1,280,000
	公租公課	5,000,000
	本社経費	24,000,000
	その他の経費(旅費、備品、印刷製本等)	791,000
	合計	173,971,000
収入／支出 差額		0

### 《おわりに》

今後も民間ノウハウを活かし、地域に根ざした『生活密着型図書館 Lifrary』を目指します。「衣・食・住・読」をコンセプトに、利用者の“読みたい・知りたい”に即応する充実した読書空間として、一層のサービスの拡充に努めます。

「平成26年度山内図書館事業計画書  
～衣・食・住・読書！ 生活密着型図書館「Lifrary」を目指して～」

平成26年3月  
山内図書館指定管理者 有隣堂グループ

## 平成25年度自主企画事業の振り返り

- ・市民協働事業や地域団体との連携事業の継続開催により、関係を更に深め発展性を持たせることができた。例えば「おはなしっこ012」を共催している団体は、図書館事業で培ったノウハウをもとに地域で講習を開催するようになり、参加者の中にも読み聞かせボランティアをやってみたいという人が出てきた。
- ・子どもを対象とした事業を年間を通して実施し、子どもの読書活動支援を恒常的に行うことができた。
- ・小中学生に向けた「新聞の読み方と情報リテラシー講習」、高齢者に向けた「相続・遺言講座」、図書館をもっと活用したいという利用者に向けた「大人のための調べ方講座」など、市民の「知りたい・学びたい」に応える事業を世代やライフスタイルに合わせた形で提供し、情報発信や課題解決支援を行うことができた。
- ・新聞社や出版社等と連携して講座や講演会を開催したり、青果や花苗を販売した「産直！やまうち朝市」と併せて農業の展示や園芸講習の実施をするなど、民間ノウハウを活かし特長のある事業を展開することができた。

## 平成26年度自主企画事業実施方針

- ・「横浜市民の読書活動の推進計画」に鑑み、区役所、区内の施設や団体、大学等と連携して事業を実施する。また、これまで協力し合ってきた施設や団体との関係も維持し、事業を継続していく。
- ・「地域の情報拠点」として常に市民のニーズの把握に努め、課題解決に繋がる企画を実施する。
- ・大人のためのおはなし会や郷土の紙芝居公演、夏のおはなし祭りなど、人気があり恒例となっている事業であっても、見直しやブラッシュアップで内容の充実を図り、満足度の高いものとする。
- ・書店として培ってきた民間ノウハウを活かした企画（ビブリオバトル、出版社との連携講座・展示など）を実施し、非来館者の利用促進に繋げる。

## 実施予定事業月別一覧

月	事業名	記者発表の有無	ミニコミへの情報提供の有無	備考
4月	【企画展示】新学期、よんでみようこんな本！(4月～5月)	無	有	
	子ども読書週間おはなし会 (C)	無	有	
5月	【企画展示】トリックアート	無	有	協力：あかね書房
	ふるさと青葉の紙芝居（春）	無	有	協力：あおば紙芝居一座
	やまちゃんキッズクラブ①	無	有	
	館内ツアーア&検索機の使い方講習①	無	有	
	マネー講座「NISAを踏まえた資産運用入門講座」～小額投資非課税制度～（全2回）	無	有	協力：神奈川県金融広報委員会
6月	トリックアート工作会	無	有	協力：あかね書房
	空とぶじゅうたん 大人のためのおはなし会①	無	有	
7月	【企画展示】夏休み、よんでみようこんな本！(7月～8月)	無	有	
	小学生のための調べ方講座	無	有	協力：ポプラ社
	山内図書館ビブリオバトル	有	有	
8月	やまうちとしょかん 夏のおはなし祭り2014 (B)	無	有	
	小学生夏休み一日図書館員	無	有	
9月	講座「横浜の文芸」（仮）（全4回）	無	有	
	山内ライブラリーカレッジ（仮）	有	有	共催：青葉区、青葉区内の大学
	青葉区内6大学連携講座①			
	館内ツアーア&検索機の使い方講習②	無	有	
10月	【企画展示】牛込の獅子舞・鉄の獅子舞（仮）	無	有	
	山内ライブラリーカレッジ（仮）	有	有	共催：青葉区、青葉区内の大学
	青葉区内6大学連携講座②			
	あおば探訪「牛込の獅子舞」	無	有	
	ふるさと青葉の紙芝居（秋）	無	有	協力：あおば紙芝居一座
	空とぶじゅうたん 大人のためのおはなし会②	無	有	
	やまちゃんキッズクラブ②	無	有	
11月	山内ライブラリーカレッジ（仮）	有	有	共催：青葉区、青葉区内の大学
	青葉区内6大学連携講座③			
	はまっ子読書の日 おはなし会 (C)	無	有	
	やまちゃんキッズクラブ③	無	有	
	本の病院（修理ボランティア活動紹介）	無	有	
	【事業協力】山内地区センターまつり	無	無	
	【事業協力】青葉おはなしフェスティバル2014	無	有	
12月	【事業協力】区民交流センターまつり 図書館ブース出展	無	無	
	【企画展示】介護予防パネル展	無	無	共催：青葉区保健福祉センター

1月～3月は裏面に

1月	ふるさと青葉の紙芝居（冬）	無	有	協力：あおば紙芝居一座
	青葉区いろはカルタ大会	無	有	協力：まっぴい青葉の街
	館内ツアー&検索機の使い方講習③	無	有	
2月	空とぶじゅうたん 大人のためのおはなし会③	無	有	
3月	【企画展示】青葉区の桜みどころマップ	無	有	

定例おはなし会（定例おはなし会、親子おはなし会、福祉保健センター連携事業等）

おはなし会A（職員によるおはなし会）		
事業名	対象	日時

おはなし会B（ボランティアによるおはなし会）		
事業名・団体名	対象	日時

おはなし会C（ボランティアと職員による協働おはなし会）		
事業名・団体名	対象	日時
空とぶじゅうたん絵本と語りおはなし会	3歳以上 1人でおはなしを聞ける子	毎月第2・4水曜日 15:30～16:00
空とぶじゅうたん絵本と語り親子おはなし会	1歳以上の子どもと保護者	毎月第2・4金曜日 ①11:00～11:30 ②11:30～11:50

その他の定例的な事業 ※概ね2ヶ月に1回程度開催するものは定例的な事業としてご記入ください。

事業名 (ボランティアによるもの・ボランティアと職員の協働によるものは団体名もご記入ください)	対象	日時
子どもを育てるあそびとおはなし！“おはなしごっこ012” ※共催：NPO語り手たちの会“おはなしごっこ012”チームよこはま	0.1.2歳児と保護者	毎月第4木曜日 10:30～11:45

平成26年度 山内図書館 小・中学校 支援年間計画 (別紙2)

		図書館の主な動き (児童関係)	学校の動き	図書館見学 インタビュー	来館調べ 学習 レファレンス	職業体験/ 職業講話	学校訪問支援 図書館整備相談 /読み聞かせ ボラ活動支援など	山内図書館学校連携主催事業(展示、読み聞かせ講座、修理のための製本講座、図書館活動相談、学校連携展示、ホームページ等)	区図書館教育研究会、教職員向講習、他団体研修会講師、等	教職員貸出
4月	上		入学式							事業説明/支援プログラム配付
	中	展示								
	下	特別お話会					○環境整備相談			
5月	上	トリックアート展								随時受付◎
	中	キッズ①					○	修理講座・全2回		
	下			○				学校図書館相談日①修理	学校司書交流会	
6月	上	工作会		○	○		○		中学図書館部会	随時受付◎
	中			○	○		○	読み聞かせ講座・全3回		
	下	蔵書点検		○	○		○	学校図書館相談日②修理	担当者会議	
7月	上	展示(夏リスト)		○	○		○	展示:選書に役立つ本		随時受付◎
	中	調べ方講座		○	○		○	学校図書館相談日③修理	あおばネットワーク	
	下		夏休み		○	◎	○			
8月	上	おはなし祭				◎				随時受付◎
	中	1日図書館員				○		(学校支援ページ更新)		
	下						○	○	研究会講師	
9月	上	キッズ②		◎			○			随時受付◎
	中			◎			○			
	下			◎	○		○	学校図書館相談日④修理		
10月	上				○		○	修理講座(土曜)全2回		随時受付◎
	中	キッズ②			○		○	学校図書館相談日⑤修理		
	下			○	○		○	展示:児童の作品		
11月	上	特別お話会	浜読日				○訪問ブックトーク			随時受付◎
	中	キッズ3		○	○		○訪問講習	ボランティア交流会		
	下			○	○		○	学校図書館相談日⑥修理		
12月	上			○	○		○	講座:読み聞かせ		随時受付◎
	中						○			
	下		冬休み				○		市図研修会	
1月	上									随時受付◎
	中	かるた大会			○	○	○	学校図書館相談日⑦修理		
	下			○	◎		講座:読み聞かせ	推進校報告会		
2月	上			○	○	◎				随時受付◎
	中			○	○	○	○			
	下			○			○	*学校連携テーマ展示		
3月	上	キッズ③					○各校へ事業報告			随時受付◎
	中		卒業式				○			
	下		春休み				○蔵書相談			

\* ◎は特に頻度が高く、重点を置く時期 ○は比較的頻度が高い時期